長島文芸

明神俳句会

梅雨あがる軸の風鎮深みどり　迫口　君代
氾濫の携帯電話薄暑駅　平山　風鳥
朝顔や蕾の捩る反抗期　筑前　初市
夕立や客は一人の島のバス　大堂　早苗
帰省子や大の字にねる古だたみ　平山　勝子
夕虹やつぎつぎ掛かる木の葉グロ　二階堂妙子
時計鳴る無人の部屋よ夜の秋　関　佳代美

長島短歌会

水張りて農夫の田植え機緩緩と
　やがて悉く早苗田となる　岩下　ち江

桜島に上る煙のもくもくと
　真青の海面に翳りの走る　岩下　房代

後継の当てなき農に八十超えし
　義兄は黙して機具の手入れす　樫平　頼子

天の日の照り盛るこの現世を
　葬送の師に涙塞き敢ふ　米尾　和子

身罷りし恩師の歌集めくりおり
　指導受けたる日日思ひつつ　中山タマエ

湖と見紛ふほどに凪ぎし海
　磯立て網の浮が見え居り　浜田美代子

峡田荒れて葦群青く風に鳴く
　若き日亡夫と植へし二期作田　浜畑　松枝

読み返す恩師の歌集「黒の瀬戸」
　潮の流れは逝去を知るや　林　ヒロ

いぬまきに守られながら岬畑
　甘夏柑は日々に太れり　本田　幸子

耐へ難きまでの暑さよ海よりの
　川遡る風に癒さる　町田キクエ

薄れつつ鈍き光さす黒板に
　「火の用心」の亡き夫の字よ　松元　睦子

大木の栴檀の花乱れ咲く
　グランドに老ら玉打ち遊ぶ　吉田　映子

一般の方の作品

短歌

海荒るうねり高しと打寄る
　すごい海鳴り波の音なり　町田　末則

泣きながら後を追う孫宥めつつ
　今日も日雇いに我は出でゆく　藤川いみ子

俳句

孫等去り風鈴の音も元通り　川添　行秋

夏帯のうしろ姿や香のかおり　笹元　政美

町立図書館おすすめBOOK

新刊紹介

図書館に置いてある最新本の中から
おすすめのものをピックアップ。
バラエティーに富んだ
新刊を紹介します。

町立指江図書館 / 電話 0996-88-6500

B型自分の説明書

Jamais　Jamais 著

自身B型であり、B型ゆえの自分の特徴を分析した著者は、B型人間を理解するためのマニュアルを書き上げた。読めば読むほど「こんなとこ、あるある」と共感してしまう。B型の人はもちろん、それ以外の人にも楽しめる、新感覚のユニークな一冊。

町立鷹巣図書館 / 電話 0996-86-1111

のぼうの城

和田　竜 著

時は乱世。天下統一を目指す秀吉の軍勢が唯一、落とせない城があった。武州・忍城。周囲を湖で囲まれ、「浮城」と呼ばれていた。城主・成田長親は、領民から「のぼう様」と呼ばれ、泰然としている男。智も仁も勇もないが、しかし、誰も及ばぬ「人気」があった。